

(様式1) ※A3判(1枚)に収める。実践充実プランの内容と年間推進計画書との整合性に留意して記載すること。

「道徳教育推進拠点校事業」実践充実プラン 四万十市立東中筋小学校		校長	小島 良友	教員数	12	学級数 児童生徒数	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		合計		
		道徳教育推進教師	弘瀬 栄美				児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数
研究テーマ		「伝え合い、認め合い、ともに高め合う児童の育成」～「考え、対話する道徳科」を要として～																			
年度当初の学校の状況		到達目標				中間検証(下半期に向けての改善事項)								年度末(到達目標達成状況)							
<p>本校の児童は、これまで2年間の道徳科の授業改善や、道徳に対する意識付けを行うことにより、道徳科の授業に対して意欲的に取り組む姿が多く見られるようになった。また、自分事として考えたり、友達の意見と比べたりしながら道徳的価値について多面・多角的に考える姿も見られる。昨年度行った道徳意識調査において、「道徳の勉強はすきだ」に対する肯定的評価98.0%、「道徳の授業では、自分の考えを伝えたり、ほかの人の考えを聞いたりしながら、自分のこと(生き方)についてよく考えている」に対する肯定的評価が100%であった。</p> <p>反面、「自分には良いところがある」、「家庭で取り組む 高知の道徳」の活用についての肯定的評価はやや低く、学校での取組や道徳科の授業が自尊感情の向上や、家庭との連携に十分結びついていない現状がある。</p> <p>そこで今年度は、家庭・地域への情報発信や協力体制の構築を更に進めるとともに、教育活動全体を通しての道徳教育の推進を図るために、教科・特別活動・学校行事等との関連を図る等工夫しながら、児童の道徳性の向上に繋げていきたい。</p>		<p>◆道徳意識調査の肯定的割合の向上(〔 〕は昨年度末)</p> <p>①家の人と道徳の話をしたり、「家庭で取り組む 高知の道徳」を読んだりしている 70%以上 [66.0%]</p> <p>②自分には、よいところがあると思う 75%以上 [72.0%]</p> <p>③人が困っているときは、進んで助けている 93%以上 [90.0%]</p> <p>④地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある 92%以上 [90.0%]</p> <p>◆道徳授業チェックシート(授業者・参観者・児童)の向上</p> <p>①考える必然性のある発問、多面的・多角的に捉えられる発問をしている 授業者 3.2以上 [3.2] 参観者 3.6以上 [3.6]</p> <p>②児童生徒の反応を生かし、問い返すなどして思考を深めるようにしている。授業者 3.2以上 [3.2] 参観者 3.6以上 [3.6]</p> <p>③全体を通して自分の考えが深まっていく授業だった。児童 3.6以上 [3.6]</p> <p>④友達と考えを話し合い、聞きあえる授業だった。児童 3.6以上 [3.6]</p> <p>◆家庭との連携・啓発</p> <p>①保護者アンケートにより「高知の道徳」を活用している。70%以上</p>																			
到達目標達成のための取組		取組計画 ※評価 A(十分できた) B(おおむねできた) C(あまりできていない) D(全くできていない)																		指標達成状況の分析	
取組項目	取組の評価指標	5月～8月				中間評価	9月～2月(中間検証を踏まえての追記・変更可)								達成状況		年度末評価				
道徳科の趣旨を踏まえた指導計画の充実	<ul style="list-style-type: none"> 校内推進委員会を計画的に実施し、進捗管理を行う。(毎月1回以上) 各学年の年間指導計画、別業(カリキュラム表)に基づく取組の検証(年3回以上)を行う。 別業(カリキュラム表)及びそれに基づいた取組が児童の自尊感情や道徳性を高めるものになっているかを検証する。(児童意識調査年3回以上) 	<ul style="list-style-type: none"> ①校内推進委員会において、研究の進捗状況を把握し、改善を図る。(毎月1回) ②道徳教育全体計画(各学年の別業)、年間指導計画の作成及び見直しを図る。(作成4月、見直し8月) <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の内容と各教科等の関連について、年間計画やカリキュラム表に効果的に位置付ける。(ユニット化の構築) ・道徳科の年間指導計画の評価・振り返り欄への記入(随時) ・道徳授業及び他の教育活動の中で児童が効果的に評価を受け、自尊感情を上げているかを検証する。(意識調査5、7月、道徳ノートの記述等) ③意識調査の検証を踏まえた改善策の検討・分析を行う。(8月) 					<ul style="list-style-type: none"> ①校内推進委員会において、研究の進捗状況を把握し、改善を図る。(毎月1回) ②道徳教育全体計画(各学年の別業)、年間指導計画の実質化を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の内容と各教科等の関連について検証する。(2月) ・道徳の時間の年間指導計画の評価・振り返り欄への記入(随時)及び次年度への見直しを行う。(2月) ・道徳授業及び他の教育活動の中で児童が効果的に評価を受け、自尊感情を上げているかを検証する。(意識調査10月、児童アンケート1月、道徳ノートの記述等) ③意識調査の検証を踏まえた改善策の検討・分析を行う。(10月) 														
道徳科の趣旨を踏まえた「考え、議論する道徳」の授業研究	<ul style="list-style-type: none"> 日々の授業の事前研・事後研等を通して、授業力を向上させる。(道徳授業チェックシート【授業者・参観者】『発問』『応答』3.2以上【児童】『思考の深まり』『対話する授業』3.6以上) 公開授業研究(4回)、授業づくり講座(4回)、において参加者より広く意見をもらい、授業改善に生かす。(授業力チェックシート参観者3.6以上) 他校(研究校)の授業づくり講座、研究発表会等へ参加し自己の授業に生かす。(5回以上) 	<ul style="list-style-type: none"> ①授業者と道徳教育推進教師(または管理職)による事前研→授業実施→事後研のサイクルの定着を図り、授業の質を向上させる。(5月～8月) ②研究授業以外の日々の道徳科授業において、道徳推進教師や管理職が参観する時は、授業力チェックシートを活用し、授業改善に生かす。(毎回) ③授業記録(教師及び児童の発言等の記録)、学習指導案、教具、板書写真、ワークシート、事後研の記録等を残し、改善に生かす。(5月～8月) ④講師招聘による事前研・授業研究を行う。(6年・5年・4年・2年、内5年は、公開校内研及び協議) <ul style="list-style-type: none"> ・道徳授業チェックシートの活用・集計・分析を行う。 					<ul style="list-style-type: none"> ①授業者と道徳教育推進教師(または管理職)が、事前研→授業実施→事後研のサイクルの定着と授業の質の向上を図る。(9月～2月) ②研究授業以外の日々の道徳科授業において、道徳推進教師や管理職が参観する時は、授業力チェックシートを活用し、授業改善に生かす。(毎回) ③授業記録(教師及び児童の発言等の記録)、学習指導案、教具、板書写真、ワークシート、事後研の記録等を残し、改善に生かす。(9月～2月) ④講師招聘による事前研・授業研究を行う。(3年・1年、内3年は、授業づくり講座及び協議) <ul style="list-style-type: none"> ・道徳授業チェックシートの活用・集計・分析を行う。 ⑤他校(研究校)の授業研究会へ参加し、授業改善の視点や評価方法について自己の授業に生かす。また、全教員での共有を図る。 														
道徳科の趣旨を踏まえた評価の研究	<ul style="list-style-type: none"> 評価の考え方や評価方法を全教員で共有するとともに、評価の質を上げるための研修を行う。(年間3回以上) 学期末の個人懇談及び通知表において、道徳性に係る成長の様子を保護者に伝える。(年間3回) 	<ul style="list-style-type: none"> ①全教員で道徳科の評価についての研修を行う。(5月) ②校内推進委員会で検討した評価方法を全教員で共有する。(6月) ③評価文を交流し合い、評価の視点に合わせて改善を図る。(7月) ④学期末の個人面談、通知表において保護者に伝える。一年生の保護者には評価についての説明文書を渡し、理解を促す。(7月) ⑤全教員で道徳ノートや振り返りの交流をし、指導と評価の一体化についての共通認識を図る。(研究授業時)(5月～8月) 					<ul style="list-style-type: none"> ①道徳ノートを活用して、学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握、評価について協議する。(11月) ②評価文を交流し合い、評価の視点に合わせて改善を図る。(12月・2月) ③学期末の個人面談、通知表において保護者に伝える。(12月) ④全教員で道徳ノートや振り返りの交流をし、指導と評価の一体化についての共通認識を図る。(研究授業時)(9月～2月) 														
家庭・地域と連携した道徳教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 全学級公開による道徳参観日を実施し保護者アンケートをとる。(年2回)(出席率100%、道徳授業に関する肯定的評価100%) 「親子道徳の日」を設定し、「高知の道徳」の活用及び保護者への啓発を図る。 「高知の道徳」を活用した家庭学習を設定する。(各学期1回以上) 道徳便りを年10回以上発行、HPや学校通信での情報発信(年3回以上)を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①全学級公開授業の道徳参観日を実施する。(5月) <ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート(1回目)を実施し、保護者の意識向上を図る。 ・地域にも広く参観を案内する。 ②全学級で「高知の道徳」を活用した家庭学習を設定し、家庭での活用を促す。(各学期1回以上) ③「道徳便り」を定期的に発行し、学校の取組、授業の様子や児童の意見、「高知の道徳」等の話題を発信して啓発を行う。(5月～8月、月1回) 					<ul style="list-style-type: none"> ①親子道徳の日を設定する。(10月) <ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート(2回目)を実施し、保護者の意識向上を図る。 ②全学級で「高知の道徳」を活用した家庭学習を設定し、家庭での活用を促す。(各学期1回以上) ③「道徳便り」を定期的に発行し、学校の取組、授業の様子や児童の意見、「高知の道徳」等の話題を発信して、啓発を行う。(9月～2月、月1回) ④四万十市研究推進実践交流会において取組内容を発表する。(1月) 														